

1990
11
No.400

広報

入善町

まちを愛して400号



●発行／入善町役場 ☎939-06 富山県下新川郡入善町入膳3255 ☎0765(72)1100 FAX 0765(74)0067 ●編集／総務課



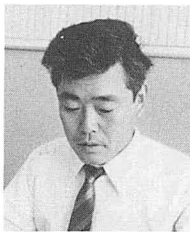
■町のイメージアップ作戦

PART. 31 武村福祉会館

幸せ一杯のお二人は、10月7日に式を
挙げ記念すべき 2,000組目のカッ
プルとなった山本芳男さん・
由美子さん夫妻。武村福
祉会館は愛と幸せを
祝福する町のシ
ンボルです。



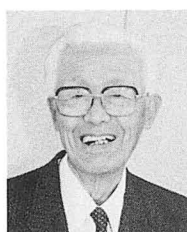
役場に勤めて3か月目に広報の編集を命ぜられてビックリ仰天。各課の仕事の内容もわからず、原稿書きに四苦八苦していました。



上田卓治

S39年6月～44年3月まで担当。現在総務課秘書係。

当時が広報担当職員などいみませんでした。他の仕事が忙しくて広報を出す余裕がなかったのです。そこで、私を含めた中央公民館の職員でなんとか発行することになりました。私は「入善町風土記」を10年近く担当、けっこう人気のコーナーでした。その中の記事がもとで、野中と小松市の両今江地区住民の交流が実現したのが、今では一生の思い出です。



竹内慎一郎

「入善公民館報」の時に入善町風土記の代筆として活躍。

創刊号が出たのは合併直後のことで、

秘話？思ひ出話？ 歴代広報マンは語る

「良い広報を」といろいろ苦勞を重ねてきた元広報マンたち。取材などを受けて、見覚えのある顔もけっこうあるのでは……？

▼100号(昭和40年5月号)の表紙は町の花チューリップ。週刊紙サイズへと一まわり小さくなった「広報にゆうぜん」。

(昭和36年1月～昭和48年2月)



花咲きはこる五月

スタイルは「入善公民館報」と変わらず、新聞紙サイズ。発行が、入善町役場に変わった「入善町報」創刊号。(昭和30年4月～35年12月まで)



広報入善のあゆみ

「広報入善」の歴史をたどると、昭和29年9月1日に入善中央公民館から発行された「入善公民館報」までさかのぼります。タブロイド判(新聞紙の半分の大きさ)で4ページ、公民館活動や社会教育事業のほかに、町の話題やお知らせ、予算、農業問題についても書かれ、毎月1回、全戸に配布されました。

いゆる「町報」として出発したわけではありませんが、その内容から見て、現在の「広報入善」の前身だといえます。創刊のあいさつで当時の町長故米沢元健は「……この館報は、町民皆様の館報でありますから充分これを利用なさいますようお願いいたします」。

号外発行は過去3回「武村米蔵さんが福祉会館の寄附を約束」(S46・3)、「名誉町民第一号に武村米蔵氏」(S47・10)、「町民会館オープン」(S61・5)で号外発行。うれしいニュースは待ち切れないのです。

36年1月号からは「広報にゆうぜん」と再び名称が改められ翌37年2月号からは、大きさがB5判となり、新聞紙サイズから週刊紙サイズへと変わりました。また、このときから表紙に大きな写真が掲載されるようになりました。ちよつと変わった横型のスタイルは、48年2月号まで約10年間続きました。

号外発行は過去3回

その間、「善意の窓」や「おめでた・おくやみ」などのコーナーが新設、写真も以前と比べ多く掲載されるようになりました。特に、「38豪雪」や昭和44年夏の黒部川堤防決壊の被害を伝えた写真や記事は、今でも貴重な資料として残っています。



このころの広報の内容は、ニ

■ずくのまに……まもなく。またたく間に。何人もの広報マンが毎月毎号苦勞してつくった広報入善が400号。過ぎてみれば、ずくのまの感もある。読んでいただくことだけが励みなのです。

読んでもらうためには町民参加の紙面づくりが大切とは思っていたが、当時は町からのお知らせ記事がほとんどで、固い内容が多かったように思います。貴重な体験をさせてもらって、今でも感謝しています。



松島唯志

S44年4月から50年3月まで担当。現在企画財政課管財係。

広報マンとして7年間従事したものの専任ではなく、用地取得の仕事で1ヶ月半奔走したことも。文書もカメラも初めての私には、天皇の行幸啓、44年の水害、寄り回り波等のトビックスや議会記事は家での徹夜が続き、暗室での急造写真も今では笑い種となった。横型から縦型へ、活字から写真植字へ、モノクロからカラーへ。広報の変遷期で苦労した故、原稿用紙恐怖症は今も完治していません。



鍋谷良和

S51年4月から56年3月まで担当。現在企画財政課企画係。

昭和51年4月から5年間、担当させていただきました。紙面づくりで苦労したことは、役場からのお知らせだけでなく読者とともに考える広報をということ。特集記事を毎号企画したこと。また、読んでもらえる広報をということで、カメラポ欄やふるさと再見コーナー

昭和48年6月号(190号)からは再び縦型へ。サイズは現在と同じB5判。写真は「広報にゆげん」2000号で、表紙は「母子家庭の運動会」一日お父さん。



昭和55年1月号(269号)から12月号(280号)の表紙は、松原宣昭さん作の版画で飾り、毎月カラーという豪華版。「広報にゆげん」の文字も少し変更を受けています。



ユースや役場からのお知らせがほとんどで、町民の顔や意見が登場するようにするのは、まだずっと先のことでした。また、不定期発行になることが多く、年に5、6回しか発行されないこともありました。

48年6月号からは、横型から縦型へと変わりました。翌49年には、議会活動や一般質問の内容などの記事を広報から切り離し、「議会だより」の第1号が発行されました。広報委員会の制度ができたのもこの年です。

その後は、「グループ紹介」や「カメラポ」や「私たちの広場」など、毎年のように新コーナーが設けられ、町民のみならずの登場も多くなってきました。55年1月号からは便利な「町民カレンダー」が登場。より親

初代さわやかさんからのメッセー

人気の「さわやかさん」の第1号は、昭和59年1月号に登場した松平春美さん(青木)。「あの時のことはいい思い出になっています。今度は男性のさわやかさんにも登場してもらいたいな」。



「広報入善」いつたいいくら?

カラー版か白黒か、あるいはページ数によってそれぞれの値段はまちまちですが、それらを平均すると、20年前で1部が約9円程度。現在(平成元年度)の値段は約55円になります。さあ、安いか? 高いか?

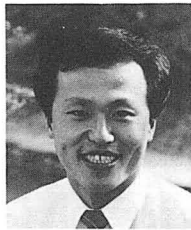


しみやすく、分かりやすい広報へと近づいてきました。巻頭の特集ページも年を追うごとに充実し、毎月テーマを決めて、分かりやすく、そして町民のみならずと町づくりを考えていこうという方針のもとに編集されるようになりました。

さらに62年からは、広報モニター制度を取り入れ、一般の町民のかたにも編集に加わっていただくことになりました。そして今、最近の広報がベストではないにしても、少しずつ良い広報へと発展してきたと言えるのではないのでしょうか。これからも「広報はみんなで作る」という基本姿勢をくずさず、もともととみなさんに読まれ、親しんでもらえるようにしていかなければなりません。

図はじめのおわり……始めと終りが同時のこと。1回きりの意。物事を頼み込むとき「はじめのおわり」と言ってくる。そんな時、鼻歌で応えようこれつきり、これきり、もう、これつきりですか。

年齢・性別を問わずたくさんの人たちと知り会えたこと、特に全国の広報マン・ウーマンとお酒も含めた交流は、とても励みになりました。甘口広報から辛口広報への転換を図る時期にきているのではないかと思います。



愛場俊司

S60年4月から元年3月まで担当。現在県庁企画県民部へ出向中。

毎月発行という「待ったなし」の状態が何ともいやでありました。当時よくあれだけ、つべこべ書けたな、と思います。今はとても書けません。

新しく手掛けたことといえば、「そこから見たにゅうぜん」、「さわやかさん」。表紙の「顔シリーズ」では、町民の顔を撮りまわりました。とにかく、町民に読んでもらえるよう和らかさを出す紙面を心掛けた。結果はどうであったか？



小森 裕

S56年4月から60年3月まで担当。現在生涯学習課学習振興係。

ナーも始めましたが、松原宣昭先生の切り絵によるふるさと歳時記をカラーで1年間連載できたことが楽しい思い出です。



▲ひらがなから漢字へタイトルの変更を受けた「広報入善」。「イメージアップ作戦」は現在もなお継続中。

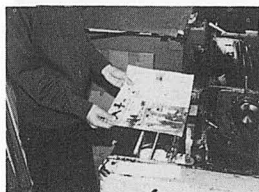
(昭和63年4月号～)

▼300号は、昭和57年8月号で達成。表紙は「ふれあいシリーズ」で、ほほえましい写真がみんなを喜ばせました。

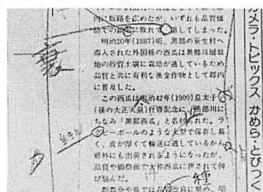


▲昭和56年1月号(281号)から1年間続いた「顔シリーズ」は大好評。アンコールにこたえ、4年後再び登場することに。

さて、将来の「広報入善」はどんな姿になるでしょう？



⑤印刷…この段階では、すべて印刷屋さんにおまかせ。発行部数は約8,300です。



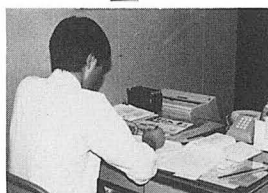
④出稿・校正…原稿や写真を印刷屋さんに出します。試し刷りでは間違い直しを3回します。



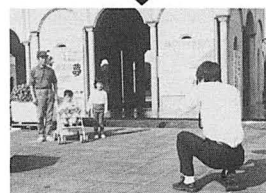
①広報委員会…来月号の企画について、みんなで話し合います。



⑥配布…区長さんや班長さんを経て、各家庭に配られます。



③編集…取材メモをもとに原稿を書き、用紙に割り付けします。



②取材…メモを取り、写真を撮ることが広報の命です。

広報ができるまでの道のり

月に一回みなさんのもとへ配られる広報。この広報がどうやってできるかを見てみましょう。

●とぶ……走ること。運動会お疲れさまでした。転入して来た子供に「よーとぶか？」と聞いたら「飛ばん」と言う。ところが、走らせると、カール・ルイス並に「とぶにもとぶや」

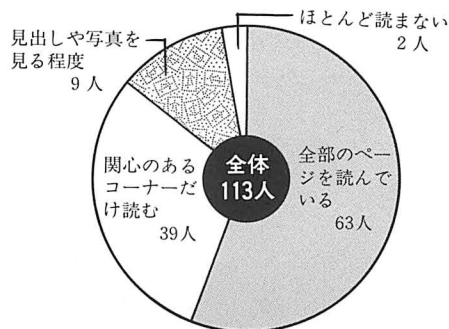
広報入善 読者アンケート

毎月1回、各家庭に届けられる広報入善。町民のみならずはどれだけ読んでいるのでしょうか。また、広報に対する意見や要望は？広報係では町内に住む150人のかたがたを対象にアンケート調査をしました。

どんなテーマの特集を
組んでほしいですか

(43人が回答)

- 町の将来像や町づくりの構想・計画など……………10人
- スポーツ振興、体育館の建設について……………5人
- 町行政における経過報告や最新情報など……………5人
- 若者の意識、青少年育成について……………4人
- 環境汚染、ゴミ問題……………4人
- 町財政の詳細な使途について……………4人



■毎月どの程度読んでいますか

ほとんどの人が読む
または見る

■どのコーナーに関心がありますか（複数回答）

意外、さわやかさんは女性に人気

今月のさわやかさん	男	女
そとから見た入善	25	40
表紙(イメージアップ作戦)	25	33
わかるかな？入善弁	23	21
この人	19	24
月別の特集	21	21
グループ登場	17	25
赤ちゃん・おくやみ	14	26
ふるさとの歴史	25	14
広報お知らせ版・案内・募集	16	23
カメラトピックス	16	22
町民カレンダー コスモホール案内	15	23
はりきってます	12	19
あなたと図書館	9	10
善意の窓	11	6



身近な話題や生の意見を
もつと多く、より深く

調査の概要

- ①期 間 平成2年9月25日～10月5日
- ②対 象 中学生から70歳までの町在住の男女
- ③方 法 対象者 150人を無作為に選び出し、アンケート用紙を郵便にて配布・回収
- ④回答率 150人中113人が回答（回答率75%）内訳は男48人、女65人、年代別では10～20代が33人、30～40代が42人、50代以上が38人。



私から一言 意見・要望

- ▶ 広報「お知らせ版」の町民カレンダーが少々見づらいです。特に保健関係は見逃しがちなので改良を
- ▶ 他市町村の広報からみれば、とても読みやすいと思います。しかし、町政の流れが読み取れず、町の取り組み状況の解説をお願いします。
- ▶ ページ数を増やして、すっきりとした読みやすいものにしてほしいです。各コーナーの配置も古い感じがします。文字ももう少し大きく。
- ▶ 年代によって興味・関心はさまざま。それぞれの年代に合ったコーナーやページ割りをしてみれば…。
- ▶ 一人でも多くの町民の意見を拾い集めてほしいです。町かどにご意見箱のようなものがあればいいと思うのですが…。
- ▶ 知人や近所のおばあちゃんなど身近な人がたのて写真が載っている記事は興味深く読めます。地域の問題もたくさん掲載してください。
- ▶ 町づくりに対して、町民の思っていることはたくさんあるはずです。突っ込んだ意見、なまの声をもっと出してください。町民もそれを待っていると思います。
- ▶ 広報を通してどの層（年齢）にどんな方向で生活していったらいいか、みんなで考える姿勢が必要だ。

- 老人福祉、ボランティアなど …… 2人
- その他 …… 2人
- 連載コーナーを新設、さてあなたのアイデアは？ …… 9人
- 不用品交換情報や求人、メンバー募集など伝言板コーナー
- 仲良し夫婦・ほのぼの家族
- 地名の由来や町の歴史上の人物の功績を紹介する
- 俳句や短歌、あるいは意見・随想などの投稿コーナー
- 素敵なお店や町の企業を紹介してほしい
- 「私の健康法」、「私の工夫」
- 「税金のQ&A」や町のしくみをマンガなどで紹介してみても
- 男性やミセスのさわやかさん
- 町外で活躍している人からのお便りコーナー
- あの町この町視察記はいかが

■不満なところ、改良してほしいことは（複数回答）

……たくさんあります

① 地域の話題や情報をもっと多く掲載してほしい	54人
② 町民の意見をもっとたくさん聞けるようにしてほしい	44人
③ 知りたい情報が少なく、コーナーやページ数を増やしてほしい	23人
④ カラー印刷にしてほしい	21人
⑤ 見やすく楽しいデザインを工夫してほしい	21人
⑥ 特集ページを、もっと内容の濃いものにしてほしい	17人
⑦ 写真のスペースを増やしてほしい	14人
⑧ 文字が細かく読みづらいので大きくしてほしい	7人
※ 現状のままでよい	8人

ご意見にお答えして…
できるものから改善します

アンケート調査の結果、貴重な意見や提言をたくさんいただきました。ありがとうございます。

年齢層による意見の違いはあまりなかったものの、コーナーの関心度では、「ふるさとの歴史」や「この人」などは年輩のかたに人気がありました。

文章や表現に対する不満はほとんどありませんでしたが、写真の配置や紙面構成に対する不満はけっこう目立ちました。地域の話題や情報が少ないというのは、ページの構成などにも問題があると思われます。今までの広報のスタイルを変えるのはたいへん難しいことですが、要望の多かったもの、可能なものから少しずつ改善していかなければなりません。ただし、そのためにはある程度の研究期間が必要で、どんな工夫をすればいいのかみなさんと相談しながら決めたいと思います。

投書欄の設置や情報量を増やしてほしいとの要望に対し、みなさんの意見や知りたいたいと思われる情報を先取りすることも必要です。

全国の広報紙を展示

一度読んでみてください

町では、全国1100の市町村と広報紙の交換をしています。そのどれもが、広報入善が目ざそうとするお手本となるものばかりです。それらを次のとおり展示しますので、みなさんも一度手に取って読んでみてください。

■期間 …… 11月17日(出)26日(月)

■場所 …… 図書館展示コーナー

※ご意見・要望をお待ちしています。

役場広報係 ☎ 72-11100 (内203)

読みごたえある広報紙に期待

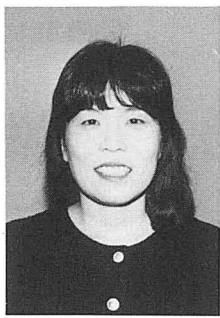
宮本 孝さん

富山県広報課長
(県広報広聴研究会長)

富山県広報課長 宮本 孝さん
(県広報広聴研究会長)
広報入善の400号発刊を心からお祝い申し上げます。広報入善は、県下市町村の広報コンクールでは常に優秀な成績を収め、全国広報コンクールにおいても、いくつかの賞に輝いています。日頃のご努力に対し深く敬意を表する次第です。広報紙は、住民のみなさんに行政をPRするものであり、読みやすく、分かりやすくすることが大切です。その点広報入善は、写真やイラストをふんだんに取り入れ、たいへん読みごたえのある広報紙です。これからはますます面白く、内容の充実した広報紙づくりに努められますよう期待します。

広報の役割りは無限大です

長田 弘子さん



入善町農協勤務 長田 弘子さん
「入善町のうきょうだより」担当
情報が氾濫している中で、広報紙は的確な情報を知らせることが大切な役目。また、お互いに忙しく、人とのふれあう時間が少なくなっている今日、せめて紙面でなつかしい人に会っていただいたり、いろいろな人の考え方・実践していることを知ってもらい仲立ちの役もしたいと思っています。そんな点で広報「入善」を読んでいると町の動きや入善の良さ、今まで見えなかったこと、ちがった一面がたくさん見えてきます。広報を担当する者としてお互いに「親しく読んでほしい、役に立つ広報紙づくり」に努めたいですネ……。

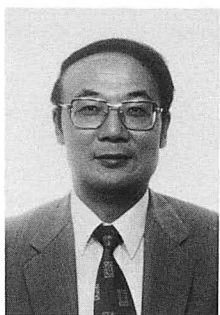
す！ 広報入善

広報入善は、まだまだ未熟で力不足です。だけど、町を精一杯愛しているし、みなさんの笑顔をなによりも大切にしています。やがて、いい広報になったねとお互いに喜びを分かち合えるように、みんなで、広報入善を育てていきたいですね。

毎月里帰りしているみたい

五十里 武二さん

(東京都東村山市在住)



私も妻も、ふるさと入善を離れて30年近くになります。二人とも、毎月の広報ふるさと便が届くのをとても楽しみにしています。お互いに読み終ってから入善をあれこれ思い浮かべ、一時を忘れて夢中で話し合っています。時折、子供に「何の話をしているの？」と聞かれ苦笑いすることもしばしばです。公園や施設も次々と整備されているようで、毎年里帰りの待ち遠しくなりました。欲を言えば、村のニュースコーナーがあればなと思います。今後も夫婦共々、青春の思い出などを広報入善の中から見つけて、アルバムにとじたいですね。

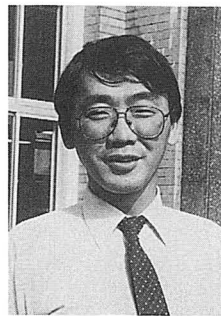
◆たなく……持ち上げる。運ぶの意。たなく仕事は機械がするようになった。使わない筋肉は日に日に退化する。いつもの調子で重い物を持つと必ず腰をギックリ。運動して、そして心して「たなけ」



泉 裕子さん
(新上野・24歳)



「広報入善に登場するイラストは私が担当してま〜す。みんなで作る広報、これからもよろしくね！」



バイタリティーを失わずに

米 陀 峰 信さん
(黒部市役所・広報担当)

創刊400号おめでとうございます。毎号充実した紙面を飾っている広報入善には学ぶ点が多いです。私たち新川ブロック

広報研究会（魚津以東の2市3町の広報担当者で組織）では、広報紙の向上を目ざし、お互いに切磋琢磨しています。酒席を共にすることもあります。その時の彼（入善町担当者）の言葉が今でも思い出されます。それは「ここ1週間ほとんど眠っていない」との一言。たぶん締切りに追われていたのでしょうが、そのバイタリティーには驚かされました。これからも良き伝統を引き継いで、苦心と熱意をもってがんばって下さい。

応援しま

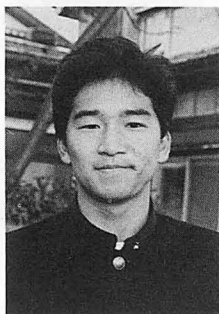


時には町民世論を動かすほどに

小 路 由以子さん
(小摺戸一区)

広報入善は町で唯一の情報紙なんです。町民と町との対話を大切に、町民の心のよりどころになることを期待します。

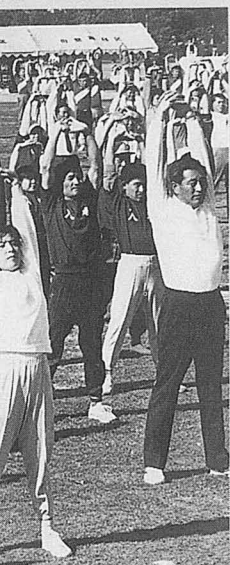
そのためには、各世代の交流や地域の活動など、常に町民の生き生きとした姿が紙面にあふれていることがまず大切だと思います。毎月の特集記事は、その企画や準備などで編集者はたいへんだと思いますが、「みんなで町づくりを考える」という姿勢を常に忘れないでいてください。片寄らないように人々のいろんな意見を拾い上げ、場合によっては紙面上で論争すること、町民世論形成の一つの方法だと思います。



もし僕が広報編集者だったら

井 田 毅くん
(入善高校3年)

学校では文化委員をやっています。校内新聞の発行なども担当しているので、広報入善には興味があります。もし僕が広報入善の編集者だったら、まずお役所の固いイメージを取り除き、難しい言葉や専門用語を全部なくしてしまします。次に地域の話題をもっとふやし、いろんな人の顔を登場させたいですね。高校生の出番もまだまだ少ないようだし、それからコスモホール案内をより詳しく掲載してみんなにPRします。僕たちの間では、この情報がいちばん気になってるんですよ。あとスポーツコーナーもあったほうがいいな。どうですか？



.3.

第22回町民体育大会(陸上の部)が10月22日、秋晴れさわやかな運動公園で行われました。選手の迫力あるプレーと応援団のものすごい声援とが交錯し、たいへんな熱気に包まれた一日でした。

町民。パワー爆発!!

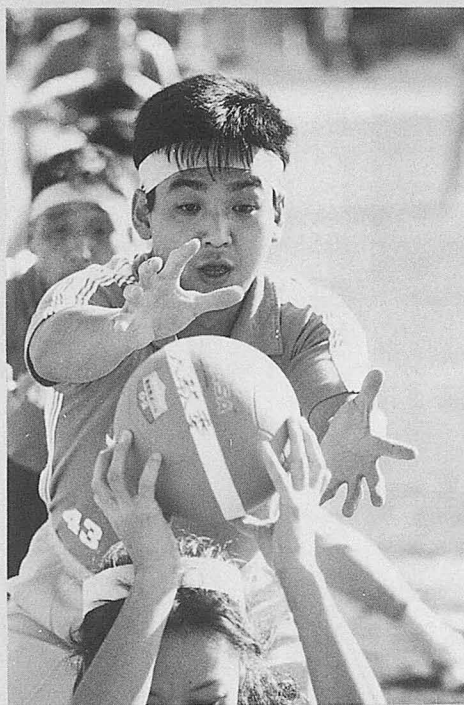


▲うおーりゃー、負けてたまるかこのやろー



◀力強い選手宣誓は新屋地区の下町選手

▼よしきた、ほい、ほい…順走球



▲見たか若者よ、これが50代の走りだぜ



▲玉入れ競争、入いれ、入いれ、入いってくれ

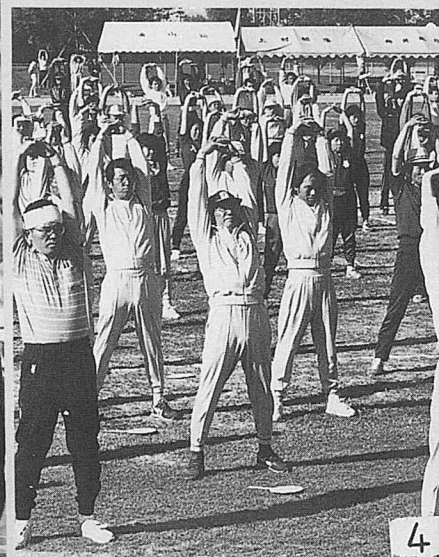
♪でがんばった横山のかあちゃん



▲さあ、何が出る? 「出たところ勝負」だー



▲「おっ、やったあ〜。それ行け〜」応援団の大声援



▲総勢？千人の大準備体操。ハイ、1.2



◀見事なスティックさばき。でもボールはどこ？



「だまってワシについてこい」
「でも、あつ足が…」

▼がんばれ、あと一息だ、早く、早く



入善地区団、連続総合優勝

この日行われた陸上の部は舟見が優勝、次勝は飯野、3位は小摺戸、以下上原、入善、新屋、青木、野中、栢山、横山の順位となりました。その結果、先に終了した球技の部と合わせ、総合順位が次のとおり決定しました。

総合順位	
優勝	入善
次勝	上原
3位	舟見
4位	飯野
5位	小摺戸
6位	青木
7位	新屋
8位	栢山
9位	横山
10位	野中



▲優勝旗を受け取る
入善地区選手代表

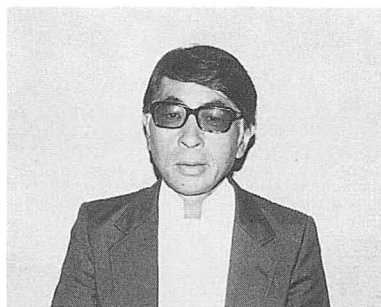
▼応援の



映画「少年時代」は大成
 でした。
 藤子 ありがとうございます。
 映画の仕事は初めてでしたが、
 みなさんのおかげでとてもいい
 作品ができました。横山小学校
 へ延びる「長い道」に出会えた
 ことは本当にラッキーでした。
 ハリウッドや国際映画祭でも上
 映されまして、アメリカの人た
 ちから面白いへん高い評判をい
 ただいています。苦勞も多かつ

そとから見た にゅうぜん

10月3日にコスモホールで開か
 れた「入善町教育講演会」で講師
 として出演していただいた漫画家
 の藤子不二雄[△]さん。「少年時代」
 の原作者であることはみなさんご
 存じ。気さくて、何とも近い感
 じのするお人柄です。



第9回入善町中学校音楽会

主 催 入善町中学校委員会・入善町中教職員会 後 援 入善町教育委員会・入善ライオンズクラブ

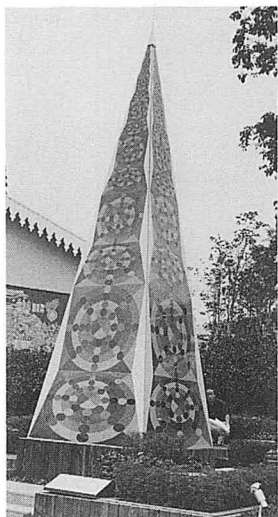
「ちびまる子ちゃん」も登場

入善町中学校音楽会

町内 3 中学のブラスバンド部員ら約 130 人が一
 堂に会し、第 9 回入善町中学校音楽会が10月 3 日
 コスモホールで開かれました。「レイダースのマ
 ーチ」や「あの素晴らしい愛をもう一度」ほか、
 吹奏楽、アンサンブル、混声合唱など16曲が披露
 され、聴衆はうっとり。合同演奏では人気アニメ
 の主題曲「踊るポンポコリン」も登場しました。

花博から町のシンボルへ 立山マンダラ庭園が移設

花の万博に富山県が出展し、町出身の洋画家・
 前田常作さんが制作した「立山マンダラ庭園」が、
 入善町へ移設されることになりました。中心モニ
 ュメントの「花マンダラ塔」は赤、黄、緑、紫と
 鮮やかに彩られ、内部の照明とライトアップによ
 り幻想的な表情を見せてくれます。新庭園は、役
 場内の 8 号線横に来春完成の予定です。



「お年寄りの就労と生きがいづくりの場」を目
 ざした、入善町シルバー人材センターが誕生。10
 月 2 日、事務局のある老人福祉センターで設立総
 会が開かれました。会員は40人でスタート。入善
 駅前駐車場の整理に従事した入善10区の上野進さ
 さん（69歳）・トメ子さん（70歳）夫妻をはじめ、
 翌日からさっそく活動を開始しました。

シルバー人材センターが設立 まだまだ現役です

かめら・とぴつくす カメラ・トピックス かめら・とぴつくす

芦吉住

入入上芦小入舟青青入小上入舟一小新青青田住

摺 摺 /

崎原所

膳膳野崎杉膳見木島膳戸野膳見宿戸屋木島又所

倉柏氏

沢千中菅小水三盛浦大小路高新寺寺米竹上飛保

田原誠

田葉瀬原杉下一賀山滝田哲徹大森清保林博山野正幸

兼吉志

仁和人巧俊英一人樹豊夫徹徹貢智司紀之幸男

74 83 年令

長長長長長長長長長長長長長長長長長長長長長

本本世

明祐皓麻沙亮大玲竜嘉弘美純剛紗夕茉和恵名

人 人 主

梨太遊垂綾典貴奈佑代行月子志保貴衣希吾前

おくやみ
 〈敬称略〉



おめでた
 〈敬称略〉



●いいからかん……あやふやな。一杯飲んだ勢いで「君は松坂慶子にソックリだね」と言い寄って来た。「いいからかん」
 の男が多くて困りますが、それから、私はいつも夜飲みに出るようになったのです。

ふるさと歴史

No.45

特産「黒部西瓜」の出現



園芸作物として、明治末年には「舟見ぶどう」が有名で、大正頃には梨やリンゴが梶山村の特産として下新川郡内に販路を広めたが、いずれも品質価格での競争に敗れて衰退してしまった。

明治20年(1887)頃、黒部の荻生村へ導入された外国種の西瓜は黒部川扇状地の砂質土壌に栽培が適しているため、品質と共に有利な換金作物として郡内に普及した。

この西瓜は、明治42年(1909)皇太子(後の大正天皇)行啓記念に、黒部川にちなみ「黒部西瓜」と名付けられた。ラグビーボールのような大型で保存し易く、皮が厚くて輸送に適しているから県外にも出荷されるようになったが、品質や価格面で大和西瓜に押されて伸び悩んだ。

郡農会や県では品種改良に努め、昭和8年(1933)病気に強く多収穫の「新黒部7号」が出現して作付面積は飛躍的に増大し、入善駅からも毎年、関西方面に出荷された。

ただ、西瓜は連作が出来ず、気候変動や病虫害への細心の注意が必要で、更に出荷時期によって価格変動が極めて大きい。大正末から昭和10年代の旧「入善町事務報告書」によれば、毎年の収穫高の不安定さと市場価格の乱高下、作付面積の変動などに神経をすり減らしている様子が、よくうかがえる。

入善町史編さん委員 栗三直隆

たけど、作って良かったなと実感しています。

出身地の富山県については、藤子 私は水見の生まれで、高校を出て上京するまでは高岡にいました。富山を離れてずいぶんたちますが、映画の準備で2、3年前から何度もこちらを訪れるにつれ、ふるさとにすぐく関心をもつようになりました。入善へも5、6回来ましたが、とても気分が安らぎます。すばらしい自然をずっと守ってほしいですね。

今後の抱負は

藤子 漫画は人生のゆとりを創造します。楽しく愉快なものをこれからも描き続けます。イメージディレクターとして、富山のPRにも努めたいですね。

迫力満点、ごっつぁんです 慈善大相撲新川場所



千代の富士、旭富士はじめ4横綱、小綿や地元出身の琴ヶ梅、駒不動など人気力士がずらり。10月17日に行われた慈善大相撲新川場所。入善西中学校グランドの特設会場には、開始前から3千人のファンが詰めかけ、力のこもった取り組みに盛んな声援と拍手がおこりました。

取り組みは序二段から始まりましたが、この途中、横綱とチビッツ力士との取り組みやしょっきり、髪結いの実演が披露されるなど、大きな力士を前にみなさんは大喜びでした。

かめら・とびくす カメラ・トピックス かめら・とびくす

新	藤	舟	目	上	下	福	入	芦	舟	青	青	入	新	高	東	青	舟	小
屋	原	見	川	野	見	新	島	膳	崎	見	島	木	膳	屋	島	五十	岩	桑
寺	草	中	杉	野	宮	蛇	松	田	井	小	大	松	木	寺	広	五十	岩	桑
崎	野	本	沢	沢	本	谷	島	原	田	森	角	島	本	鳴	瀬	里	山	島
は	由	す	次	ハ	ち	金	ア	ア	ミ	や	と	久	光	武	里	光	ゆ	き
な	則	み	郎	ナ	い	太	ヤ	ヤ	サ	子	松	弘	義	吉	みつ	雄	き	よ
73	43	83	82	89	84	78	78	80	64	86	59	80	86	55	86	96	43	88
本	敬	本	本	本	本	順	本	本	秋	本	本	本	つ	本	光	久	語	本
人	次	人	人	人	人	作	人	人	義	人	人	人	ね	人	一	子	一	人

●よーろつぱしゅー……足のふともも。慈善大相撲がやってきた。とにかく小綿はデカカッタ。(ヨーロツパ) とはこんなに広いものか！好天に恵まれ、楽しい一日であった。

第31回 入善町社会福祉 大会から

地域福祉のために努力を重ねてこられた次のかたがたに、表彰状と感謝状が贈られました。

▼善行児童生徒（以下敬称略）
田原大輔（入小）、大野和美・木田花子（上青小）、伊野誠（飯野小）、寺林友美・鍋嶋奈緒（黒東



▶表彰式は10月1日、町民会館で行われました。写真は表彰状を受け取る善行児童生徒のみならず、

小）、鍋谷郁恵（桐山小）、池原大然（横山小）、秋田孝之（舟見小）、小坂恵美子（野中小）、青木和恵・君島出（入善中）、井田智美（入善西中）、水越恭子（舟見中）
▼社会福祉功労者
五十里宗栄（東五十里）、金森樹智朗（入膳）、米沢芳次郎・文子（入膳）、大野八郎（吉原）、広島ノブ子（青木）、立塚久二雄（芦崎）、小林与三雄（小摺戸）、長谷信一（浦山新）、長島義雄（桐山）
松田伊治（春日）、上野信夫（舟見）、小松政雄（今江）、伊林秋義（小摺戸）、鍋谷林作（入膳）

▼社会福祉事業基金多額寄付者
田原直行（入膳）、田中正男（入膳）

▼多額浄財預託者

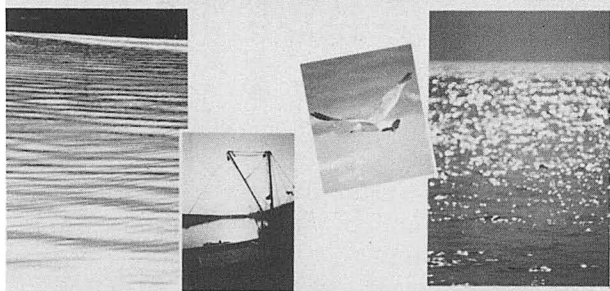
永井肇（新屋）、前田清一（下飯野）、杉沢吉郎（目川）、愛場一立（上野）、船平松久（吉原）、塚田七蔵（下飯野）、坂東敏彦（西中）
栄沢キクエ（吉原）、東瀬繁行（舟見）、高見輝雄（東狐）、山本正勝（入膳）、大野八郎（吉原）、谷口栄（桐山）、藤井さよ子（入膳）、坪野邦雄（下山）、裏千家萩の会、崇善明会教団高岡支部、光明寺めぐみ会、西本願寺富山地区黒東組寺院、裏千家観音寺和楽会、いろり茶屋

▼下新川郡社会福祉協議会長表彰
稲村きくえ（中沢）、入善町商工会婦人部

第18回 入善町美術展 から

全部で145点の出展の中からそれぞれの部門で次のかたがたの作品が町展賞および町展大賞に選ばれました。

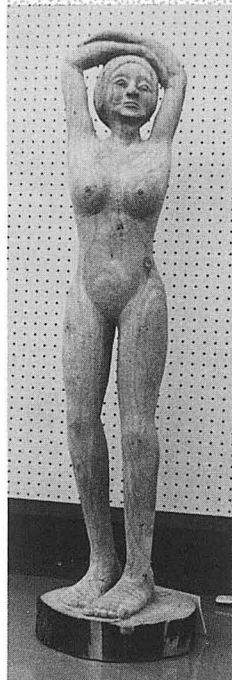
✧写真の部・町展大賞
「海（1）」
池原憲文さん
（入善13区・38歳）



✧工芸の部・町展賞

「想」

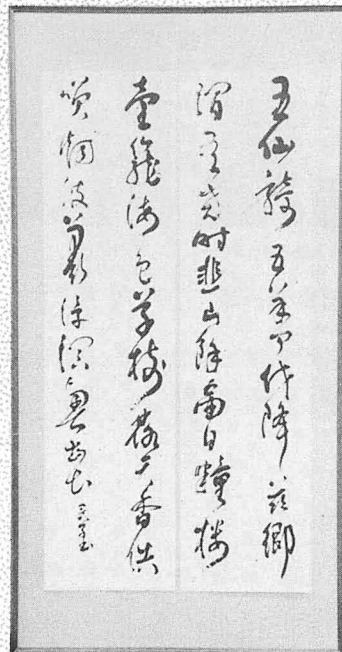
藤田政也さん（新屋・61歳）



✧書の部・町展大賞

「李群玉の詩」

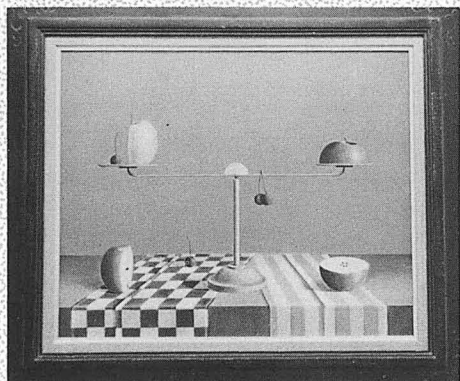
柏原民子さん（入善8区・60歳）



✧日本画・洋画の部

「リンゴとさくらんぼ」

高源敬子さん（新屋・23歳）



長年の実績に感謝して

31名が町政功労者に



元町議会議員
西尾三郎
(吉原・71歳)



幸町区長
千葉武雄
(梶山・59歳)



入善13区区長
鍋島磯松
(入膳・71歳)



元区長連絡協議
会長
伊野清作
(芦崎・77歳)

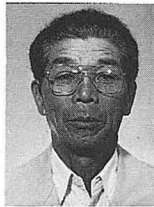
■ 地方自治

長年、町政の発展に貢献してこられたかたがたの功績とご労苦に敬意を表し、町では次のかたがたを町政功労者として表彰することになりました。各分野で活躍された受賞者は31名。男性が28名、女性3名で最年少は48歳の真岩勇さん、最年長は81歳の流三郎さんです。表彰式は、11月1日に役場会議室で行われます。これからますます活躍が期待されます。



町福寿会連合
会長
流三郎
(上野・81歳)

■ 社会福祉



交通指導員
池原正晴
(藤原・65歳)



交通指導員
扇原光雄
(入膳・68歳)



元教育長
森 栄
(入膳・65歳)

■ 交通安全



入善町経済
顧問
田中儀一郎
(富山市・70歳)

■ 産業経済



町消防団
舟見分団長
東瀬繁行
(舟見・51歳)



元婦人防火
クラブ会長
愛場美津恵
(入膳・56歳)



町消防団
入善分団長
米澤俊男
(入膳・61歳)

■ 消防・防災



環境保全
監視員
真岩 勇
(春日・48歳)



町 医
森 清三
(入膳・71歳)



町 医
近藤秀雄
(入膳・73歳)

■ 環境保健

お知らせ



町職員の異動

10月1日付けで行われた役場人事異動(係長以上)の内容をお知らせします。

●課長級

総務課長

住民課長

福祉課長

環境保健課長

農政課長

学校教育課長

議事事務局長

総務課主幹

企画財政課主幹

企画財政課主幹

環境保健課主幹

都市計画課主幹

建設課主幹

課長代理

総務課秘書係長

農政課農地調整係長

舟見支所所長代理

施設管理事務所所長

係長

住民課住民係長

農政課農林係長

●退職者

早川崇(総務課長)

(福祉課長)

青木幸秋(環境保健課長)

滝本浩(施設管理事務所長)

※()内は前職

上田 一次	赤川 秀夫	高見 武	松田 安治	永井 克生	松田 一光	鬼原 征彦	上原 正三	松島 唯志	寺西 英明	上原 和夫	本多 良久	林 栄佐雄
卓治	宏二	光成	泰男	柳沢 一郎	小森 九仁夫	高沢 源作	高沢 源作	高沢 源作	高沢 源作	高沢 源作	高沢 源作	高沢 源作

●よすけむく……そつば向くの意。知らぬ振りして横を向く人が居る。その時、腹が立っても怒らない。堪忍袋は破れたら縫い、破れたら縫いする心が大切。

善意の窓

あたたかいご芳志に感謝いたします

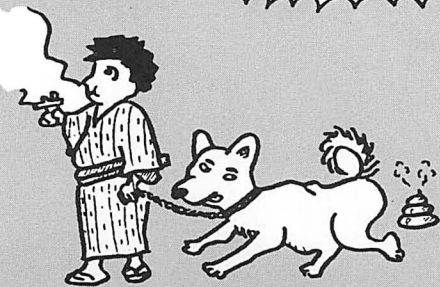
◆社会福祉事業資金へ (9月11日～10月10日)

氏名	金額(円)	備考
吉原 杉原大祐	4,778	
八幡 尾山善昭	100,000	亡父賢二の供養として
入膳 上田 憲	100,000	亡父重吉の供養として
浦山学園理事長 浦山 哲郎	13,500	婦人の家教養講座講師謝礼を
欄山 菅野亜矢子・健一	30,000	亡父一男の供養として
入善町商工会青年部	7,000	織り姫コンテストTシャツ販売上金を
舟見ベアリング細路会 代表 松田吉郎	9,000	(少年時代)前売券手数料を
青木 岩山慶子	100,000	亡父光雄の供養として

犬の

フン害、

多発警報!



モラルのない飼い主にご注意ください…!!

最近、「犬のフンが目立って困る」という苦情が相次いでいます。フンの始末は飼い主の当然のマナーです。責任を持って始末してください。



元婦人グループ
連絡協議会長
宮島 あや
(下飯野新・71歳)



元農業委員会
長
四月朔日秀臣
(一宿・72歳)



入善町農協
組合長理事
大角 秀尚
(青島・67歳)



富山日本電気
顧問
小柳 進一
(上野・66歳)



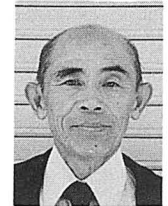
元用水管理員
橋本 初太郎
(新屋・76歳)



横山漁業協同
組合長理事
尾山 賢二(故)
(八幡・70歳)



水田農業確立
対策推進員
岩田 嘉顕
(高瀬・57歳)



受託者協議
会長
大角 盛義
(青島・66歳)



連合婦人会
長
川瀬 律子
(入膳・68歳)



社会教育委員
玉池 流心(故)
(上野・56歳)



元大工職業
訓練所長
大野 和悦
(新屋・76歳)



職工組合運営
委員長
五十里 乙松
(入膳・76歳)



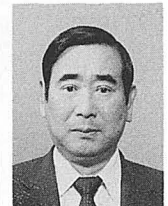
元体育協会
理事
酒井 敬
(舟見・65歳)



体育指導委員
広川 恭毅
(青木・53歳)



琴伝流大正琴
の会会長
泉 重信
(青木・65歳)



国風流詩歌吟
詠会上師範
柏原 功
(入膳・62歳)

お知らせ

天気予報で
お馴染みの
倉嶋 厚さんの講演会

◆NHKの「ニュースセンター9時」のおはようサンデーなどの天気予報キャスターとして活躍の倉嶋厚(くらしま・あつし)さんの講演会。▼日時: 11月12日(午後7時半)▼場所: 入善町民会館コスモホール▼入場券には: 入場券が必要。町民会館窓口で10月24日(水)から発売中。1枚500円▼主催: 入善町ナチュラリスト研究会。



▲倉嶋 厚さん

解決への近道 無料法律相談会

財団法人日本調停協会連合会では、次のとおり無料法律相談を実施します。お悩みのかたは一度足を運んでみてください。
▼期日: 11月5日(月)午前10時～午後4時▼場所: 魚津サンプラザ3階イベントホール▼相談事項: 金銭や土地・建物などの貸借の紛争、損害賠償、相続、家庭内や親族間の紛争など。

◎こく……一般的には出すこと。ばかこく、だらこく、は○○のことを口に出すこと。「災は口から出る、病は口から入る」余計なことは語らず、余分なものは食べずが処生訓。

私たちの広場

「FALLEN LEAVES (落葉)」

イラスト
関 美智留さん
(幸町・18歳)



ご意見などを

お寄せください

この広場は――

●ご意見 ●イラストやマンガ ●グループの紹介 ●私の趣味……などに利用したいと考えます。

紙上匿名は自由ですが、原稿には必ず住所・氏名を明記してください。

広報担当係 ☎72-1100
内線 203

「黒部川はその昔、この辺をこういうふうに流れていたんじゃないかと思うんですよ。地図を見てください。私の調べたことによりまして……」。

学会での野外調査のため、しばらくぶりに入善を訪れた籠瀬先生。インタビューをお願いしたところ開口一番、自作の地図を広げ、素人相手にもかかわらず熱心に最近の研究についての説明をしてくださいました。



籠瀬良明さん
(上野3区出身・79歳)

79歳で二つ目の学位



▲自作の地図をバックに黒部川の歴史を説明する籠瀬さん。

活を経て、現在は日本大学大学院の教壇に立っています。研究テーマは多方面にわたり、これまでに発表された著書や論文は400以上。黒部川扇状地の研究は60年以上にも及び、昭和51年からは黒部川扇状地研究所の所長としても活躍しています。

30年前、「低位生産水田地域の地理学的研究」で文学博士の学位を取得。そして今年3月には、今度は地学的な見地から自然堤防の研究論文を発表し、理学博士号を取得しました。ご高齢にもかかわらず、二つ目の博士号に挑んだ研究意欲の旺盛さは人並みではありません。

「まだまだ、やってみたいことが山ほどありますね。80歳になるからどうだなんて言っちゃいけないですよ」と話すその目は真剣そのもの。常に目標を持って努力する温厚なお人柄です。

★今年こそ海外スキー！

カナダウィスラー <6日間> ¥149,000より

標高差 1,600m、1時間に5万人を運ぶリフト、世界最大級のスーパーゲレンデへ手の届く価格！

★京都もみじ狩り ¥32,500より

日曜・祝日も
営業しております。

ニュージャパントラベル
TEL 74-0151 FAX 74-0129

焼肉
味美
入善町
電話 七二一四七四
電話 七二一四七四

●がんがん……①四角型でブリキの1斗缶。油類や洗剤が入っていることが多い。小さなものはカンと言う。丸型の缶はドラムカン。昔は捨てるに物を入れ、サビが出て穴があくようになるまで利用した。

グループ登場

読書が10倍楽しめす

すばる読書会

すばる読書会は、舟見周辺に住んでおられる読書好きのひとたちが集まり、今年6月に発足したばかりの新しいサークルです。活動の拠点は舟見コミュニティ公民館。メンバーは20代から60代の男女17名です。小説を主として、全員が同じ1冊の本を読んできて、月に一度の定例会でそれぞれ読後の感想を語り合います。最近では、三浦哲郎さんの「忍ぶ川」を読んで感想

を述べ合い、3号目の機関誌にもまとめました。

「同じ本を読んでみても、人によって感じ方がずいぶん違うんですよ。ときには論議に熱中しすぎて興奮してしまうこともありますよ」と話す代表の西尾薫さん（舟見6区・68歳）。感想の発表だけでなく、作者の経歴や作風を研究したり、新刊本についての情報交換などもします。また、文学を越えて美術、映画、食べ物と、いきなり話題が転換したりすることたびたび。特に恋愛や結婚、人生論などに話題が移ったりすると取捨がつかなくなるほど論議が白熱してしまうそうです。

「たとえ、みんなの意見が一致しなくても、一人ひとりの感じ方をお互いに大切にしたい、しやれた大人の会話を楽しむ会にしたいですね」と口をそろえるみなさん。

「本が好き、おしゃべりが好き、ひとが好き」が、会員の言葉になっていきます。

▲「他の読書グループとも交流したいね」と話すみなさん。

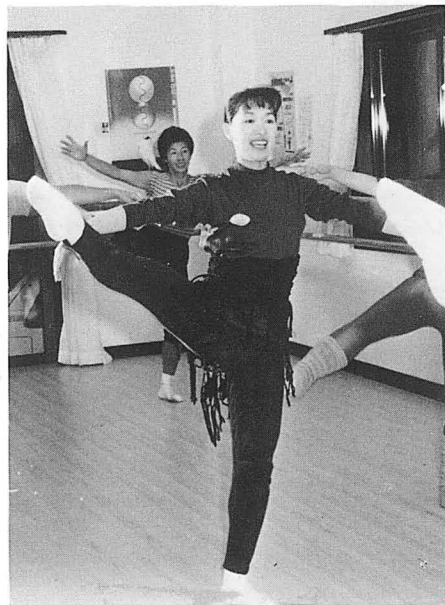


西村保子さん
(道市・37歳)

日常のロマンを 舞踏で表現

「物語性がなくテーマが抽象的なために、見ている人は戸惑いを覚えるかも知れません。だけど、いろいろ想像しながら『いいなあ』と感じてもらえるものがきつとあると思うんです。モダンダンスとは、動く抽象画のようなものですね。」

現代舞踊協会の会員として、県内各地でモダンダンスの公演や指導にあたっている西村さん。とにかく踊るのが好きで、中学、



▲11月3日の町芸術祭に向け、生徒さんとともにレッスンに励む西村さん。

高校では新体操を、大学時代はモダンダンスに転向し、現在まで踊り続けてきました。この間東京を拠点としながら海外公演にも参加し、ダンサー、振付家として活動。今では、県内の第一人者として活躍中です。

今年春に入善へ戻ってからは自宅にダンススタジオを増築して、児童や初心者のかたへのレッスンにも力を入れています。

「モダンダンスには決まった形というものはありません。技術的には流れるような動作が大切ですが、もっと大事なものは感性を磨くこと」と語る西村さん。レッスン以外にも、音楽を聴いたり、詩や美術にも関心を向けたりしながら想像力を高めます。

「舞踊団を作りたい」というのが大きな夢。舞っているときのまなざしは、絶えずその夢を見つめているかのようです。

デザイン企画……あらゆる印刷は

池原印刷

入膳(入善小学校前)

TEL 72-0158
FAX 72-1147

塾

小5・6, 中, 高生
英語, 数学, 理科

お問合わせ

☎ 74-0579

入善アカデミー

入膳13区 消防署前

今月の さわやかさん

No.83



☆"90ミス織姫
大竹美智代さん (魚津市・23歳)

11代目の「ミス織姫」に選ばれました。両親やまわりの人たちはすごく喜んでくれました。私自身は、あまりの予想外の展開になんだか不安な気持ちでいます。

これから1年間、多くの行事に出ることになりますが、特産品や景色の素晴らしさ、暖かい町民性など、自分なりに入善の良さをPRしていきたいなと思っています。

幼いころからずっとピアノを習っていました。まだ未熟なところもあるけれどどうにか講師の資格を取り、4年前から自宅で小さなピアノ教室を開いています。生徒は園児や小学生で、みんなかわいい子ばかり。私もつつい甘くなってしまう、いっしょに童謡を歌ったりしながら楽しんでいます。いつか、コスモホールでコンサートを開くのが夢なんです。そのためには、コスモホールを全国的にもっと有名にしておかなくちゃ！

好きな男性のタイプは、子どものように純粋な心を持った優しい人です。

虫の音も幽かに聞こえるばかりとなり、いよいよ初冬の訪れを感じる頃となりました。日野草城の句に、
炉開いて美しき火を
移しけり
とあるように、茶会では風炉から囲炉裡に替わる時期でもあります。さて、この茶道はご存知のように、千利休が日本固有の文化として大成されました。その利休が劇的な最期を遂げてから、今年には四〇〇年目ということ、各地で記念茶会が催されています。

野上弥生子は「秀吉と利休」、三浦綾子は「千利休とその妻たち」そして、井上靖は映画化で話題になった「本覚坊遺文」と、それぞれの視点で著しており、興味がそそられます。いずれも図書館にありますので、読み比べてみてはいかがでしょう。ところで、茶道といえば利休をはじめとする茶人達は、茶室、

茶道具そして茶花茶菓子に至るまで、お茶にまつわるすべてのものに執着心と思い入れを抱いてきました。そして、それが独特の美意識を育み、芸術として昇華させてきました。ひいては日本人の生活や文化にもさまざまな



まな影響を及ぼしており、お茶を抜きにして日本を語ることはできないと言っても過言ではありません。そこで今月は、利休やお茶についてのさまざまな本を集めて展示することにしたしました。これからは、木枯しの吹く日もあると思います。そんな日はこれらの本で、日本の美の原点を探してみたいかがでしょうか。きっと充実した時を送ることができると思います。



▼今月の特集に合わせた実施した「広報入善アンケート」。ご協力してくださったみなさん、どうもありがとうございます。手厳しい指摘や批評をたくさんいただきましたが、それらを奮発材料にして、もっとみなさんに満足してもらえようと思えます。▼ところで、読者の中には、この「編集室」を毎月楽しみにしている「隠れファン」がいると聞いています。いつも取り留めのないことばかり書いていて、本当にそんな人がいるのでしょうか？ いずれにしても、一つのコーナーだけのファンでもいいから、読者が一人でも多く増えてくれれば、それほど嬉しいことはありません。▼蛇足ですが、私自身が好きなコーナーはやっぱり「さわやかさん」。毎月取材が楽しみです。でも、今月の大竹さんは美人すぎてつい緊張してしまいました。

編集室

今月の人口

人口	30,062(-117)
男	14,379(-75)
女	15,683(-42)
世帯数	7,853(-5)
()内は前年同月比	
9月末日現在住民登録	